

# 機器と再生医療による 泌尿器アンチエイジングの最前線

日時

2023年2月26日(日)9:00~9:40

会場

アクロス福岡 大会議室

座長

齋藤 恵介 先生

順天堂大学大学院医学研究科泌尿器外科学 准教授

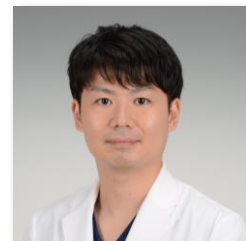


演者

高強度テスラ磁気刺激装置による  
泌尿器アンチエイジングの最前線

小林 拓郎 先生

順天堂大学大学院医学研究科泌尿器外科学



演者

乳歯歯髄幹細胞培養上清治療の現状と  
エクソソーム治療について

古賀 祥嗣 先生

江戸川病院 副院長 泌尿器科主任部長 兼 透析センター長  
兼 移植再生医療 センター長



【本セミナーで紹介されているレーザー装置及び高強度テスラ磁気刺激装置情報サイト】

- ◆インティマレーザー治療 (公式HP) <https://www.fotona-smooth.com/> (日本語情報サイト) <https://intimalaser.jp>
- ◆高強度テスラ磁気刺激治療 (日本語情報サイト) [www.facebook.com/StarformerIntimawave](http://www.facebook.com/StarformerIntimawave) [【問い合わせフォーム】](#)

【最新医療情報・セミナーに関するお問合せ】

- < Fotona社日本代理店 > Fotonaハルテックジャパン株式会社 <https://haltek.co.jp> ☒ [info@haltek.co.jp](mailto:info@haltek.co.jp)
- < 婦人科・泌尿器代理店 > TMKメディカル株式会社 <http://tmkmedi.jp> ☒ [info@tmkmedi.jp](mailto:info@tmkmedi.jp)

Tel. 052-253-7707



## 機器と再生医療による泌尿器アンチエイジングの最前線

座長 齋藤 恵介 先生

順天堂大学大学院医学研究科 泌尿器外科学 准教授

### 1. 高強度テスラ磁気刺激装置による泌尿器アンチエイジングの最前線

演者 小林 拓郎 先生

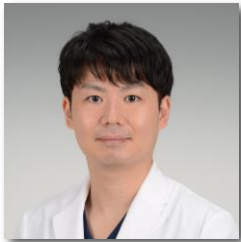
(順天堂大学大学院医学研究科泌尿器外科学)

下部尿路機能障害は加齢により増加し、特に尿失禁は生活の質を大きく低下させる。高齢のフレイル患者は非フレイル患者と比較して尿失禁の有病率が約2倍高いことや、尿失禁がある患者は、正常な患者と比較して1年後の死亡リスクが約3倍高いことも報告されている。尿失禁は高齢者におけるフレイルの指標であり、下部尿路のアンチエイジングは、健康寿命を伸ばすために重要な課題となっている。

磁気刺激療法は、磁気により発生する電流を利用し、神経や筋肉を刺激する非侵襲的な治療として、近年注目されている。泌尿器科領域では、尿道括約筋の収縮や排尿筋過活動の抑制効果から、尿失禁の治療を中心に多くの骨盤底筋に関与する疾患の改善に効果が期待されている。しかしながら、本邦では尿失禁を伴う成人女性の過活動膀胱患者のみにしか磁気刺激療法が保険適応となっておらず、下部尿路障害全般に対する臨床的なエビデンスが乏しいのが現状である。

そこで我々の研究施設では、昨年度より下部尿路機能障害患者に対して、高強度テスラ磁気刺激装置を用いて1回20-30分、週に1-2回、合計8回の治療を行ってきた。対象患者は治療の前後で排尿に関する質問票(IPSS、OABSS、ICIQ-SF)を自己記入し、約100名の治療の効果を比較検討した。

本セミナーでは、強度テスラ磁気刺激装置による泌尿器アンチエイジングの最新の知見を報告する。



小林 拓郎

2016年 順天堂大学医学部卒業、順天堂大学医学部初期研修医

2018年 順天堂大学医学部泌尿器科後期研修医

2019年 順天堂大学医学部附属練馬病院 泌尿器科

2020年 順天堂大学医学部泌尿器科

2022年 順天堂大学大学院医学研究科修了(医学博士)

2022年 順天堂大学医学部泌尿器科助手

### 2. 乳歯歯髄幹細胞培養上清治療の現状とエクソソーム治療について

演者 古賀 祥嗣 先生

(江戸川病院 副院長 泌尿器科主任部長 兼 透析センター長  
兼 移植再生医療センター長)

我々が開発した乳歯歯髄幹細胞培養上清液(SGF)は、8~12歳までの乳歯の歯髄内にある幹細胞を採取抽出し、培養し、その培養上清を専用のフィルターで幹細胞を除去。顕微鏡で確認し、細胞が1つも見られない状態にしてから作製します。

また、安全と品質を守るため、10種類のヒトウイルスチェックを行い、培養途中の細菌やエンドキシン(内毒素/細菌の細胞壁に存在し、その菌体の破壊によって湧出してくる毒素)濃度を測定して、上清液にウイルスや細菌などが確実にない状態にしています。

このように徹底した管理下で作製されたSGFは、規格化された高品質の上清液であり、点滴静脈注射、局所注射、点鼻投与、点眼投与など、様々な効率的な投与方法が選択可能です。

すでに我々のクリニックにおいて約5000人の患者様がSGFを用いた治療を行っていますが、これまで副作用はほとんど認められていません。

今回は、SGFの陰茎海绵体投与の効果に注目し、その臨床効果およびMOAについても解析を加えたので、それを発表致します。

また、99.9%エクソソームにしたものを開発したので、エクソソームと培養上清治療の効果の違いなども少しお話してきたらと考えております。

最後に培養上清治療とエクソソーム治療は似て非なるものであり、最近、培養上清を用いているにも拘らず、エクソソーム治療とうたって消費者を惑わす美容クリニックが現れており、これらに対しては厳しく自主規制をかけることが必要と判断し、今後は新たな研究会の発足を考えております。



古賀 祥嗣

1989年 産業医科大学卒業、東京女子医大腎臓病総合医療センター入局、1995年 東京女子医大泌尿器科助手

1996年 米国オハイオ州クリーブランドクリニックに移植医療、テロメラーゼを標的にした遺伝子治療のため留学

1999年 帰国後、東京女子医大泌尿器科助手、2003年 東京医科大学泌尿器科講師

2009年 江戸川病院 泌尿器科部長、2016年 銀座ソラリアクリニック院長

2017年 江戸川病院移植再生医療センター長、ソラリアクリニックグループ特別顧問

2021年 江戸川病院 副院長

2022年 アールイークリニック、ソラリアクリニックグループ会長